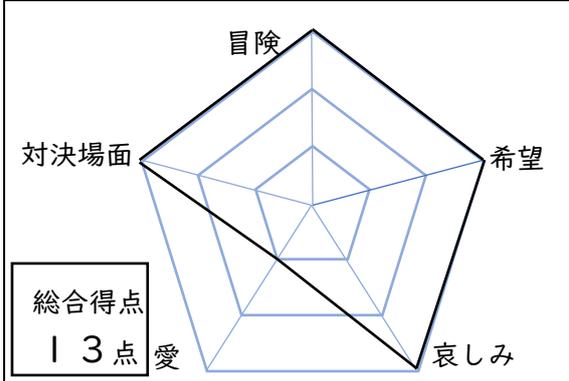
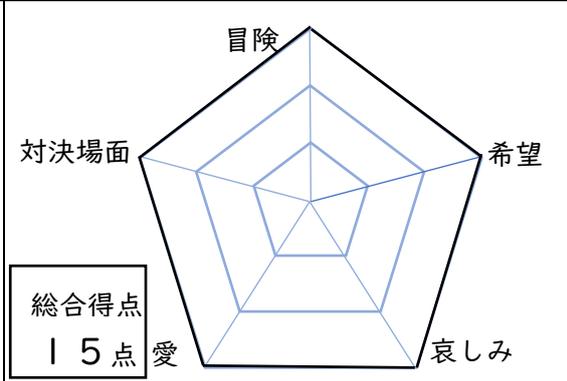
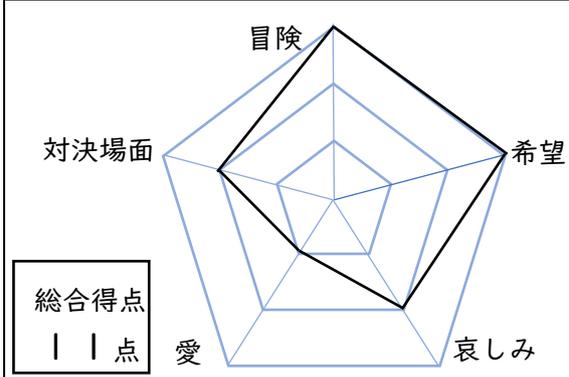
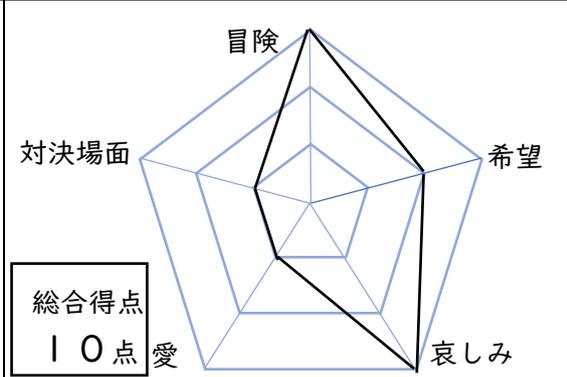


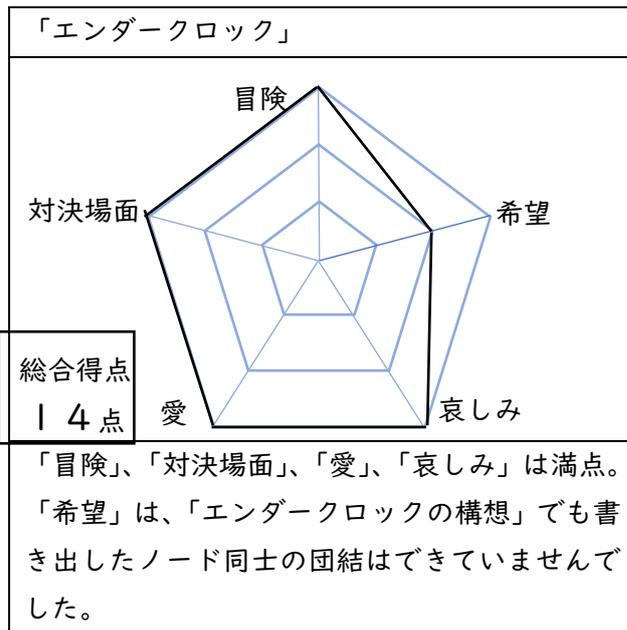
2022年12月31日

アトリエ15度

「レーダー図を使って拙著を自己評価」

「ウェブナラティブライティングを始めてみませんか？」で述べた「(私論) 物語の面白さを表す5大要素」を使って拙著を自己評価してみました。それぞれの観点を3段階評価しレーダー図でまとめてみました。

<p>「カムバックサーモンをもう一度」</p>  <p>総合得点 13点</p>	<p>「神様ロード」</p>  <p>総合得点 15点</p>
<p>「冒険」、「対決場面」、「哀しみ」、「希望」のいずれも満点。「愛」は、主人公水原崇史が同僚の原に一方的に恋心を寄せているが、直接の行動は見られずに終わっている。</p>	<p>いずれも満点です。安永学は出勤後の着信で義父がその朝、搬送されたことを知る。すぐに病院に向かう場面から非日常の連続が始まる。最後に日常から希望を見出す。</p>
<p>「夕占」</p>  <p>総合得点 11点</p>	<p>「デジタル貨幣誕生前夜」</p>  <p>総合得点 10点</p>
<p>新型コロナウイルスによって突如、非日常の生活が始まる。長引く感染拡大防止の生活は主人公中本哲史を取り巻く家族や同僚との関係に微妙なズレを生む。自己中心的な葛藤に苦しむ中本が迷走の果てに家族を守ることに生きる希望を見出す。</p>	<p>ビットコインを生み出したナカモトサトシを作品に描きたくて存在しない接点を無理に繋げた作品。主人公永野敦が社会人一年目に自分の能力と仕事とがミスマッチした苦悩が描かれている。「冒険」、「哀しみ」は取材の成果。「希望」は弱めになった。</p>



※作品をどう読むかは読者に委ねられています。総合得点は作者の自己評価です。